

伊藤ともこの議会報告



第2回那珂川町定例会が開催され、会期は6月1日～16日で16日間でした。
25議案と3つの報告があり、全て原案通り可決しています。

議案について

ふくおか市民政治ネットワークは、マイナンバー制度が拡大する条例に対し、反対をしました。

反対理由はマイナンバー制度に対しては、すでに流出事故などが起きており、個人情報の漏えいが危惧されています。安全性に疑問が残ることを認めるわけにはいかず、利用拡大に反対しました。



マイナンバーの悪用注意

伊藤ともこの議会の所属委員会

- ・経済福祉常任委員会 副委員長
健康福祉部・地域整備部
- ・議会広報特別委員会 副委員長
議会広報「議会だより」の編集・発行
- ・博多南線・長崎ルート対策特別委員会
- ・議会史編さん特別委員会
- ・議会運営委員会



学校の係と同じように、議会には委員会があります。議会のない時期には、調査活動や審議をしています。

会派制度について

改選に伴い、大きく会派が変わりました。議員定数17名に対して、清流自民9名、社民・ネット2名（伊藤ともこ所属）、共産党2名、公明党2名無所属の会2名、*1議長で構成されています。

注*1議長はその職務による、公平性と中立性を保つため、会派に所属はしません。

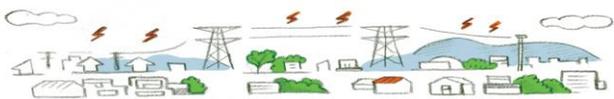
伊藤ともこの6月一般質問

① エネルギー政策について

2016.4月より、家庭や商店も含む全ての消費者が、電力会社や料金メニューを自由に選択できるようになりました。現在那珂川町でもふれあいこども館や小学校などの16施設で電力入札が行われ、約2,790万円、23%の経費節減が図られています。

このことから、町内の公共施設、公民館などの電力を見直すことによって経費節減→住民サービスへの還元ができると考えて電力見直しの提案を行いました。

4月にみやま市にある、みやまスマートエネルギー(株)に視察に行き、電気の地産地消について学びました。新たな財源を求める事なく、地域外に支払っていた電気料金を地域内に留め、還流する仕組みを構築しています。48名の雇用の創出も図られています。



エネルギーの地産地消のメリット



- 地域密着サービス
- 地域資源の活用
- 地域貢献
- 地域内の経済循環
- 産業・雇用の創出

ネット那珂川がめざすモデル図です！



② 待機児童解消について

5月1日現在、88名の待機児童がいます。共働きの子育て世帯が安心して働ける環境が整っていないと考え、待機児童解消施策の一つである届出（無認可）保育施設の保育の質の向上の提案をしました。



③ 学童保育所について

学童に行きたがらない児童や、児童への支援員の対応の不満の声を数多く耳にしました。那珂川町では平成19年度より、学童保育事業に指定管理者制度が導入されてから同じ事業者が関わっています。学童保育所が児童にとってどのような施設であるべきかを点検していきたいと考え、質問を行いました。

サポーター会員を募っています！

○サポーター会員

(500円～1500円/年間)

ふくおか市民政治ネットワークの活動は、議員報酬からの寄付と、皆さんの会費とカンパで成り立っています。ぜひ、私たちの活動を支えてください！

○ボランティアメンバー

ニュースを年4回発行しています。ご近所の方に配布してくださる方を募集中です。

